

日本原子力学会 核燃料部会

平成 23 年度 第 2 回運営小委員会議事録(企画小委含む)

日時 :平成 23 年 9 月 20 日(火) 12:00~13:25

場所 :北九州国際会議場(秋の大会開催場所)

出席者 :(順不同)

岩田部会長、安部田副部会長、田中氏(浅賀委員代理)、宇埜委員、大江委員、緒方委員、北嶋委員、木下委員、草ヶ谷委員、小林委員、佐藤(修)委員、高野委員、武田委員、寺井委員、長崎委員、橋爪委員、平井委員、永瀬氏(更田委員代理)、真寄委員、松浦委員、森山委員、山中委員、山脇委員、黒崎委員(企画小委)、坂本委員(企画小委)、若松[記](26名)

議事

1.平成 22 年度収支実績と平成 23 年度予算の確認

若松庶務幹事より資料 No.1 にて、平成 22 年度収支実績と平成 23 年度予算についての説明があった。本件について、特に質問等はなかった。

2.全体会議配布資料の確認

若松庶務幹事より資料 No.2 にて、翌日に行なわれる第 36 回全体会議での報告資料の説明があった。提示された資料にて報告することで了承された。

3.平成 24 年度核燃料夏期セミナーについて

大江委員より資料 No.3 にて、平成 24 年度に行なう夏期セミナーについて、水化学部会、材料部会との3部会合同開催で検討していることの説明があった。

討議の結果、「3部会合同開催」、「場所:松江しんじ湖ホテル/ホテル一畑」、「開催期間:2012 年 7 月 11 日~7 月 13 日」の3点が了承された。

なお、討議の中で「セミナープログラムには将来に向けたテーマも必要であり、テーマ名の付け方を工夫してほしい」、「3部会だけではなく、バックエンド等の他の部会との交流もオープンにしてはどうか」といった意見も出された。

4.WRFPM2011 報告

坂本委員(企画小委)より資料 No.4 にて、今年 9 月 11 日~14 日中国で行なわれた 2011 Water Reactor Fuel Performance Meeting (WRFPM)の紹介があった。部会報および学会誌に掲載するために、日本からの参加者により報告書を作成中であるとの。

5.「WRFPM2014」日本開催の準備について

岩田部会長より資料 No.5 にて、2014 年に日本で開かれる「WRFPM2014」のための準備作業に入ることの説明があった。2012 年 4 月に第 1 回組織委員会を開催し、さらに 2012 年 9 月に ENS 主催の「Top Fuel 2012」の際に「WRFPM2014」を正式提案することで進めていくとのことであった。本件について、討議の結果、運営小委員会として了承した。

6. H24 年春の年会、企画セッションについて

小林委員より資料 No.6 にて、H24 年春の年会の核燃料部会企画セッションについて、福島事故をメインテーマとして取り上げることの提案があった。これに対し、「溶融事故をテーマとして取り上げるとしても、今入手できているデータから判ることと判らないことを整理した上で、専門的、技術的に絞り込んで論ずるべきである」、「事故調査委の発表より前に、専門的立場から核燃料部会として検討結果を発信することが大事である」との意見がだされた。本件については、積極的に取り組むこととし、今後、メールベースで意見交換しながら案を作っていくこととした。

7. ANFC の学会共催申請について

安部田副部長より資料 No.7 にて、平成 24 年 3 月に大阪にて開催される第一回 ANFC について、「学会共催とし共催金 10 万円を負担したい」、「この 10 万円については、核燃料部会の平成 23 年度予算の中の講師謝礼、旅費の 5 万円と繰越金からの 5 万円をこの共催金に当てたい」との提案がなされた。

ANFC は部会としても積極的に関与すべきものであり、共催金を負担するというので、運営小委員会として了承した。

また、別件で既にメールベースで運営小委員会として了承がとられている「NuMat2012」への共催金 10 万円の支出についても、再度この場で共催金支出への了承が確認された。

8. 溶融事故における核燃料関連の検討 WG について

安部田副部長より資料 No.8 にて、本 WG を立ち上げることの説明がなされた。

今後、企画小委員会でもしっかりと議論しながらフットワークよくやっていくことで、本件についての運営小委員会として了承が得られた。

また、「単にやっただけということではなく、検討結果をどこに適用するかという枠組みや日本の中だけではなく、海外のネットワークも使うなど、どのような体制で進めるか等をきちんと決めて進めるべき」、「WG の立上げについて不透明であり、企画小委は不要なのではないか」との意見も出された。

9. 核燃料部会の表彰内規の新設について

安部田副部長より資料 No.9 にて、「他の部会には部会としての表彰内規があるが、核燃料部会にはそれが無いので、今後、内規を制定したい」との提案がなされた。

討議の結果、本件について、内規を作ることで了承された。

安部田副部長より、「別途、企画小委員会ですたき台を作り議論した上で、運営小委員会にも諮る」とのことであった。

10. 部会報進捗状況

武田委員より資料10にて、部会報の進捗状況の説明がなされた。予定通り、10月に夏版を発行するとのことであった。

11. 第三回運営小委員会の開催日程について

若松庶務幹事より資料 No.11 にて、次回第三回運営小委員会を 12 月に学会事務局会議室にて 13:30-15:30 で行なうことでの開催日の提案があった。

討議の結果、第一案 12 月 20 日(火)、第二案 12 月 21 日(水)として、学会事務局会議室が空いているか確認の上、庶務幹事より後日、日にちを運営委員に連絡することとなった。

12. 部会・連絡会、常置委員会の設置目的等の見直しについて

安部田副部長より資料を用いて、「学会理事会より、福島事故への対応を各部会・連絡会および関連する常置委員会の設置目的や活動内容に反映しなくてはならない状況にあるとの通達があり、そのために核燃料部会でも部会の在り方、目的について見直すこととしたい。」との説明があった。

10月末までに学会に核燃料部会としての見直し結果を報告する必要があるとのことで、別途、メールにて意見を聞くとのことであった。

以上